



# 楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第18号  
令和6年12月23日(月)  
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」

○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

## 人権月間 パート3 ～各学年の人権集会より～

現在、各学年で人権集会を行っています。

人権集会では、教材で学んだことを振り返るとともに、身の回りの差別や偏見について出し合うことにより、学年全体で学びを深めることができました。



まとめの校長講話では、パワーポイントのスライドを見せながら言葉づかい等について話しました。子どもたちのなかでは、様々な言葉が飛び交います。それがもとで、ケンカやトラブルになることもあります。

言葉は、その人の内面を表したものであり、それが行動となり、時にはトラブルになるのです。以下は、6年生の学年集会での校長講話の概略です。……………**校長講話の概略**……………

まずは、言葉づかいについてお話しします。友達のことを考えてやさしい言葉づかいができていない人は、なぜできていないのですか？バカ、あほ、しねなど、きたない言葉を言い続けている人はどうなるでしょう。

脳科学的に言えば、そのような悪い言葉を言い続ける人は、大人になってもずっと言い続けることになるそうです。口癖になるのです。人間の脳はそのようにできているのです。何回も同じ悪口を言っていると脳が重要な言葉と勝手に判断し、それが口癖になります。これを不幸な脳であるから校長先生は「不幸脳」と呼んでいます。せっかくインプットするなら、毎日が楽しくなる「幸せ脳」へと導いてくれる言葉を口ぐせにしたいと思いませんか？ちなみに、脳がもっとも活性化して気分がよくなるのは、「感謝をしているとき」だそうです。脳科学的にも、感謝をするとセロトニンやドーパミンなどの快感ホルモンが分泌されることがわかっています。

まさに「幸せ脳」の状態と言えるでしょう。夜寝る前に、その日にあったいいことを思い出して、「ありがとう」「感謝しています」などとつぶやいてみましょう。それだけで、脳が喜び、幸せな気持ちに包まれます。

「言葉」と「脳」と「行動」はつながっています。悪い言葉をいうと悪いというイメージで脳が反応し、それが悪い行動につながるのだそうです。それほど言葉は重要なのです。言葉がやさしい子は、やさしいイメージに脳が反応しますから、行動もやさしくなるということです。ですから、人格的に優しい子ということになります。そのような子は、友達もたくさんできて、楽しい人生をおくことになるでしょう。

このように考えると、相手のことを考えることができるやさしい子が多いクラスは、温かい雰囲気になり、全体的に楽しいクラスになるのです。

しかし、そうはいつでも失敗しないという人生はありません。そのつもりはないけど相手を傷つけてしまうことがあります。そのような時は、「ごめんなさい」とあやまって誠意を見せることが大切です。「ごめんなさい」とあやまることができる子は立派な子です。自分の非を素直に認めることができる人は立派だと思えます。

また、自分は悪いことをしていないけど、悪いことをしている人を見たことがあるでしょう。そのような時は、どうしますか。例えば、仲間外れをされている人を見たとか、無視されている人を見た場合です。どのような行動がとれるでしょうか。

直接相手に注意をするという方法があります。しかしそれができない時は、「先生やお家の人、友達に相談してやめさせる」など…**どうにかしてやめさせる方法をとるべきです。見て見ぬふりをしないことが大切です。**

今日は、それぞれの学年で学習したことを、自分とかさねて発表することができました。また、それに対するお返しもできましたね。お返しができるということは、友達のお話を心で聞いていた人です。だから意見を返すことができたのです。校長先生は、このような人権集会では、それが一番大切だと思います。**話す人は、自分たちの訴えを聞いて欲しいと思って話しているのです。ですから、聞いているみんなは、それを受けとめることができる仲間になってほしいと思います。**

楓の森小 HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

